

個人山行報告

山域：南アルプス中央部

人：L 迫（単独）

日時：2005年10月7日～10日（3泊4日）

行程：椹島～千枚岳～荒川岳～赤石岳～聖岳～椹島（天候不良のため聖岳はキャンセル）

昨年、計画したが台風直撃のため、登る前に停滞を余儀なくされ体調不良もあり、途中撤退となつた南アルプス縦走のリベンジ計画を実行した。しかし、天気予報は前線が停滞する予報。。。

前日（6日）仮眠のあと、1：00に宇都宮を出発、東北道、首都高、東名を順調に進む。

夜中なのにオフィスの照明が点いているところもある。仕事中？自分は休暇を取つて4連休！ムフ！

10/7（金）

4：20 静岡IC、北上し県道を進む。

昨年と違い、静岡駅から畠薙第1ダムまでのバスのルートを聞いたのでそのルートをとる。

が、こんなところをバスが！？という狭い、ワインディングを抜ける。

日が出始めるときも無くなり、雲ひとつ無い快晴となり、期待に胸膨らむ。

6：25 畠薙第1ダム着…早着（椹島へのバスは9：10）一休み

バス代￥3000（宿泊費の一部となる）を払い1BOXの送迎バスで椹島へ。相変わらず道は悪い。

10：00 榛島（1100m）

10：10 トイレ、届けを出して出発。少し林道を歩き、千枚岳への登山口へ。

ここからは、ひたすら樹林帯の登りである。斜度はゆるいが長い。

快調にピッチを上げて登る。これが後になって後悔することとなる。

少しだけ黄色くなった岳樺や、真っ赤な実を付けたナナカマドが所々にあり、少し遅めの紅葉シーズンを予感させる。

11：10 千枚小屋への車道。1本とる。まだ、

日差しが強く暑い。

晴れてはいるが、樹林帯なので展望なし。

昼過ぎくらいから、風、雲が出始める。

12：40 水場。1本とる。水が美味しい。

まだまだ、ひたすらの登り。

前半飛ばし過ぎによる、疲労で、足が張ってきた。。

13：20 薮段（2050m）。展望は無いが、森林帯の

若干湿気があるあの雰囲気がよい。

朽ち倒れた木にコケ類が増え始め、生命の根源を垣間見る。

このあたりから若干雨が降り始めるが、カッパを着るほどではないので、そのまま進む。両足の腿の筋肉が、順番に攣り始めた。我慢して休ませながら、だましまし歩く。痛みのピークが過ぎると落ち着いて、隣の筋肉が真似を始める。。。

14：50 駒鳥池（2413m）。1本とる。霧状の雨、展望なし。若干冷え始める。

湿地帯にたまつた水溜り。斜度がゆるく、昔（昭和40年頃）の伐採運搬ルートなどのくぼ地が湿地となつていて、当時の切り株が朽ちてはいるが明瞭に残つてあり、森林の大切さ、尊さがわかる。

15：25 千枚小屋着（2620m）。かなり雲が出てきており、地図を見ているともう直ぐだから、見てもいいはずなんだけどな。。。と考えつつ歩いていると、視界が悪いため、いきなり目の前に小屋が現れた。非常にきれいです。この周辺の山小屋は夏季人が在住していて有料で泊れる施設であり、整備されています。この時期（10月）はこの、千枚小屋と、赤石小屋のみが営業しており、食事、布団が提供される。そのため、この2軒の小屋に泊り、2泊3日で歩く人が多いようだ。しかし、これも、10月中旬まで。以降は人が居なくなり、冬季小屋（ぼろい休館）が開放されている。（一部の小屋は2階を開放している）テント場もある。

夕食のあと、小屋の親父のギター弾き語り2曲が披露された。宿泊客は、8人程度。客が少ないので布団は何枚使っても良いとのことで、使い放題。暖かく夜を過ごせた。感謝！



この頃はまだ、空は青かった

19:30 就寝。。。早え～～。（20:00消灯）

行動時間：今日は短めで、5時間20分（休憩含む）（ルート時間：6時間45分）

10/8（土）雨（稜線、暴風雨）

4:30 起床

5:00 朝食

5:45 千枚小屋出発。まだこの辺は樹林帯だが、直ぐに岳樺帯になり、ハイ松帯となる。

今日は朝から少雨、強風である。稜線がちょっと心配。

時折、雲が薄くなり、朝日が淡く照らし、岳樺が黄金に美しく輝くこともあり、これはひょっとして天気予報は外れたか！と、期待したが、そんな期待は無残に打ち碎かれた。。。

6:25 千枚岳(2879.8m) 風強し、雨なし、展望なし。。。記録写真撮って進む。

晴れていれば、正面に富士山、右手に荒川岳～赤石岳～聖岳が

望めるはず。。。いと悲し。

7:15 丸山(3032m) 今回最初の3000m峰 碑を撮って通過。

7:54 荒川東岳（悪沢岳）(3141m) 何も見えん。風強し、寒い。

山頂碑の写真を撮る。。。

岩陰で1本取る。が、体が冷える。

視程約20m以下

今日の山行は、全く視界がないため、

どういうところを歩いているのか全く分からぬ。

ルート図の所要時間を見て、風雨の耐えつつ、

そろそろ水場、そろそろ小屋、そろそろ山頂かと歩くだけ。

9:03 中岳避難小屋 1本取る。ここは、近くでいうと、白根の避難小屋位、これで夏季は有料なのかと思うと信じられない。3000mの避難小屋なので風強く、寒い。

動いていないと、凍えてしまう。（9:18発）
(もっと厚着すればよかった)

9:24 中岳(3083m) 風強し。展望なし。碑の写真を撮って進む。（中岳避難小屋から数分）

9:30 高山方面との分岐。荷物をデポして、空身で前岳へ向かう。

身軽になるが、背中が寒く、小走りで前岳へ向かうが、直ぐに着いてしまった。

9:35 前岳(3068m) 全く視界なし。視程約10m、風強し。碑の写真撮って荷物に戻る。

ここからは、ほとんど下りコースとなる。ガレ、ザレ、九十九折りを下っていく。

水場を通過、美味しい。流石、「南アルプスの天然水」しかも、タダで飲み放題。。。

やはり、視界の無い中をひたすら山道を進む。

時間的には、この辺なんだがなど、思いつつ歩くと、いきなり足元に立派な建て屋が現れる。

10:28 荒川小屋(2600m) 立派な小屋だが、今は閉鎖されており、少し下った冬季用の無人小屋が開放されている。こっちは、ボロ。でも、十分です。

千枚小屋で購入した稻荷寿司を食す。美味しい。冷えた体を温め、ちょっと長めの休憩。

今晚、明日の水を4L補給する。。。重い。一気に4kg増えた。（10:58発）

ここから先は、もう、暴風雨の世界。水滴が飛礫となって顔に当たる。痛い。

ほとんど登らない山道なのに、向かい風で辛い。

時折切れる雲間からは、紅葉で彩られた沢を見下ろすことができる。晴れていれば。。と思うが。

千枚岳

荒川東岳（悪沢岳）

荒川前岳



荒川中岳



こればかりはなんともしがたく、歩を進める。
 大聖寺平の分岐。若干視界が開けたが、以前風強し。
 が、雲早く直ぐに何も見えなくなる。
 この辺までは、大きなアップダウンがないため、
 ルートが見えるうちは、良いが、雪でも降ろう
 ものならたちまちロストしそうである。
 ここから、小赤石岳への登りが始まる。ますます、
 風強くなり、雨も激しくなる。
 ガレ場の登りで風にあおられ、耐風とるまもなく
 バランスを崩す。踏み出した足が、岩で滑り、
 手を着くが背の荷に耐え切れず、頭を岩にゴツン。。
 痛て～～。ま、たいしたことなく気にせず
 歩を進める。帽子が飛びうるのでキツメにして
 ついでに止血とした。

(帰ってから見るとカサブタになっていたの流血していたみたい。帽子の止血が効いたのか。。)
 13:05 小赤石岳(3044m) 碑の写真を撮って直ぐに進む。

景色なんて全く無縁の世界。何も見えない。

左側は、切れしており、恐らく100m位は落ちているのか。が、全く見えない。さっきのよう
 バランスを崩したら落ちそうである。慎重に小まで、確実に進む。雨粒が痛い。

13:18 赤石小屋への分岐

13:35 赤石岳(3120m) ここは、どこ？暴風雨で立っていられない。
 寒い。

展望なし。視界約10m。直ぐそこにあると思われる避難小屋なんて影も
 形も見えない。

碑の写真を撮ってとっとと進む。

ザレ場を下り気が付くと、目の前に赤石岳避難小屋がたっている。

ビックリ。山頂からほんとに直ぐ、空身で晴れれば、2分程度かと
 思われるところにある。が、全く見えなかった。

13:40 赤石避難小屋 ほとんど山頂に建つ小屋である。今回の山行
 目的の一つはここに泊り夕日、日の出、星空を眺めることである。
 が。。。。。全て虚しく。

今回の山行では、4回合計12羽の雷鳥と対面した



小赤石岳(暴風雨中)



行動時間：7時間55分（休憩含む）（ルート時間：8時間15分）

この小屋もきれいである。冬季は2階が開放されている。

今日は独り占め。

でも、寒い。到着時で8度であった。

寒くてガタガタ、ブルブルである。

パンツからシャツまで全てを着替えて、
 ホットを飲んで温まる。マジ寒。

10/9(日)暴風

10/10は晴れの特異日ということで、
 晴れて、日の出、星空が見れることを
 期待して、今日は、停滞することとした。
 ということで、聖岳は、今回キャンセル。
 またの機会にする。

ということで、今日一日ヒマである。

皆は、停滞の時は何をしているので

しょうか？特に単独の時。

15:00頃になってたまに雲が切れることがあるので、外に出て少し散歩する。

雨は無く、昨日より風も弱くなったようだが、依然と雲は早い。

日が出た！目の前に赤石岳山頂がいる。（「いる」と言う表現がぴったりの気がする）

一瞬の雲の隙間からの展望



急いで山頂へ、カメラ片手に登る。
展望とまではいかないが、赤石小屋
までが見えて、後には、聖へのヤセ
尾根が見えた。
が、見えていたのは、ほんの7、8分で、
直ぐにまた、雲の中。
南アルプスと自分の相性が悪いのか。
嫌われているのか。
今日は、他に7人が避難小屋に入ってきた。

10/10(月)・・・・暴風雨のち曇り
やはり、自分と南アルプスの相性は
悪いようだ。嫌われている。
昨日と同じような天気。回復に向かって
いるようだが。。。 (T・T)

4:30 起床

5:35 出発

今日はひたすら、椹島まで下るだけ。

ガレ場、ザレ場をひたすら下る。

途中 GOODな水場を通過する。この辺までくると、かなり急な沢で登るのは厳しそうだ。

富士見平の手前で岳樺の林が、霞む日の中輝いて見えたこともあった。が、ひたすら展望なし。

7:08 富士見平 360°大展望 のはづが。。。

7:34 赤石小屋 ここは、この時期まで人がいて営業している。が、既に客は居ないようだ。
靴の中で、靴下が変に当たり、豆がつぶれている。痛い。

8:50 1本とる。

樹林帯の中を進む。雨上がりの日差しが樹林帯を抜けて差し込む様子が、非常に GOOD。
しばし見とれる。が、雲が早い。

時間的にバスまでの時間はあるので、ノンビリ下る。

9:55 1本とる。

徐々に膝に痛みが。

10:35 榛島ロッジ着

最後のくだりは長~い。疲れたゼイ。

行動時間：5時間（休憩含む）（ルート時間：6時間20分）



赤石避難小屋から望む赤石岳

バスの時間まで、マッタ~リとした時間を過ごす。コーヒーが美味しい。

椹島ロッジ裏の、広場のベンチでのんびりタイム。これが心地よい。

結局今年も、天気に敗れ、計画とおりに行かず変更をすることになってしまった。

しかし、あの、3000mの稜線での暴風雨は他ではなかなか体験できないことで、

良かったのではないかと思う。（マゾか俺は！？）

歩き方になれたのか、自信がついたのか、コースタイムより早かったにもかかわらず、去年より
楽に歩けたようだ。

13:40 畑薙第1ダム行きのバス（今日は満員）

靴履き替えて、一息ついて、出発。

椹島ロッジで聞いた白樺荘の温泉は、宿泊施設にもかかわらず、入浴は無料で、お肌すべすべの
GOODな温泉でした。（但し、小さいので人が多いと大変）

やはり、帰りは、連休最終日の夜なので、東名高速は超渋滞（20km）ひたすら耐えて。
帰路についた。

